

第3回西播磨認知症ケア実践研修

特定非営利活動法人 播磨オレンジパートナー
〒679-4165 兵庫県たつの市龍野町本町 47 番地

助成事業の概要

1. 実施目的

本事業は、都市部を中心に行われる認知症ケアの研修に参加する機会の少ない、西播磨在住・在勤で、経験の浅い介護職員に研修を提供し、受講者が「認知症」を深く理解し、認知症を有する利用者への実践的なケアの方法を学び、介護現場の認知症ケアの質並びに職業意識を向上させていくことを目的とする。

2. 実施時期と内容

○11月11日（日）

- ・「ICF」で考える認知症ケア
野島伴浩氏（いつきりハビリテーションサービス代表）
- ・認知症の‘人の気持ち’～思いを理解してかかわる～
渡辺哲弘氏（株式会社きらめき介護塾代表）

○12月23日（日）

- ・認知症とともに生きる～当事者の思い・パートナーの思い～
丹野智文氏（若年性認知症当事者・おれんじドア代表）
若生栄子氏（認知症の人と家族の会 宮城県支部副代表）

○1月～2月

報告書作成・参加者および介護事業所等へ送付

事業の成果

（1）「認知症」の理解

経験の浅い職員は、初任者基礎研修など短期間に基礎的な知識を学んだだけで、デイサービスや訪問介護、特別養護老人ホームなどの介護事業所に就職し、認知症を有する利用者のケアを余儀なくされる。知識が不十分なまま、認知症の程度や個々の状態が異なる利用者にかかわるため、ケアがうまくいかないことも多いが、人手不足の多忙な現場ではOJTもままならない状況である。

渡辺哲弘氏の講義では、認知症を有する利用者の行動心理症状が、認知症のどのような理由で起こるのか、利用者が誤って物事を認識してしまう仕組みを詳しく説明していただいた。

（2）「認知症ケア」の理解

①野島伴浩氏の講義では、WHOが提唱する「ICF（国際生活機能分類）」について解説していただき、認知症を有する利用者に対して、それをどのように利用するのか、分析シートを実際に記入しながら学習した。

②渡辺哲弘氏の講義では、利用者の行動を詳しく理解する方法を学び、一人一人の気持ちに寄り添うケアについて学ぶことができた。

③若年性認知症の当事者である丹野智文氏からは、施設を訪問して、介護者が過保護であることを指摘され、本人のできることを奪わないケアをしてほしいとの要望があった。また認知

症の薬の副作用で深い睡眠が得られないことを教えていただき、夜、眠れない利用者の理解が深まった。

④丹野氏ら認知症を有する方のパートナーとして行動を共にしている若生栄子氏からは、パートナーとしての気づかいや気付きなどを教えていただき、認知症ケアが介護事業所以外でも行われていることを学んだ。

（3）自己研鑽への意欲向上・仲間づくり

丹野氏と若生氏の講座では、参加者とのフリートークをする時間を設けたが、普段感じていること、悩んでいること、感想などを話し合うことができ、職場は異なっても介護職として切磋琢磨する仲間を地域につくることができた。この研修を楽しみに、続けて受講する方も増えてきた。

成果の広報・公表

各講座については、その都度、法人のFacebook ページでその様子を写真とともに伝えした。

また、成果物として「報告書」を作成した。報告書には、各講師の当日の配布資料の中から、最も重要な部分と思われるものを抜粋し、講師の写真とともに掲載するとともに、受講者の各講座に対する感想も掲載し、参加されなかった方々にも講座の内容を知っていただき、参考にさせていただけるよう工夫した。

報告書は今回の受講生と講師に郵送するとともに、西播磨圏域の介護関係機関、介護事業所、そして過去の受講生、講師などにお送りさせていただいた。

今後の展開

西播磨認知症ケア実践研修は、続けて第4回を計画しており、これからも経験の浅い職員を対象にして、認知症ケアの奥深さとやりがいを感じていただきたいと思っている。

第4回の研修では、「臨床美術」など五感を刺激しながら行う芸術活動や創作活動が、認知症にどのような効果をもたらしているかを学び、実際に体験しながら、現場のケアに生かしていただく予定である。

まだ受講生の数も少ないが、著名な講師の講義が神戸や大阪まで行かずに受講できることは、西播磨圏域の介護職員にとっては重要なので、事業所の研修に利用していただけるよう、アピールを続けていきたいと思う。